

002

脅威に適應する介護老人福祉施設マネジメント

取組主体

社会福祉法人海光会

従業員数

想定災害

実施地域

79 人

水害等

静岡県

- ・「事業の継続は命の継続」を合言葉に、災害時に事業を継続できる介護老人福祉施設の体制整備を進めている。
- ・「真似ができる分かりやすいモデル」を構築することで、日本の介護事業に貢献することを目標にしている。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

災害リスクの高い立地に対応した、命を守るための組織体制の構築

- ・ 社会福祉法人海光会が運営する介護老人福祉施設「海光園」は、ベッド数 115 床の地元では大きな施設だが、北東には山があり、西には川が流れる急傾斜地に所在している。大雨が降り続いた場合には冠水や土石流、山崩れの被害を受ける可能性があり、「事業の継続は命の継続」を合言葉に、予測できない事態が起こった場合でも事業を継続できる組織作りに取り組んでいる。
- ・ 介護老人福祉施設は、日常生活において支援を必要とする人が多数利用しており、事業を継続することが重要となっている。人員不足等の理由から、そのための十分な取組が難しい場合が多いが、同施設では職員が一丸となって、実践的に防災に取り組んでいる。
- ・ 平成 30 年からは、自然災害・感染症・防犯を「三大リスク」と定義し、事業計画の中で減災訓練の年間計画を策定した。毎月 1 回トレーニングを実施し、その内容を会議で検証する PDCA サイクルを回す中で、ポータブル発電機の不具合の発見、危機管理体制の見直し等、ハード、ソフト面の両面からの改善を実行している。
- ・ また、近隣の介護老人福祉施設と相互支援協定を締結しているほか、消防署、警察署、静岡県社会福祉協議会の協力を得て、地震体験、防災講演、救助実践等を企画し、一般市民、利用者、従業者等、多様な人々が同じ課題を同じ場で考える機会を通じて、日頃から助け合える関係性を構築している。



地図を用いた風水害対応訓練の様子

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・ 同施設では、火災・地震・風水害における異なるパターンの避難経路図をエレベーターの扉に、津波・土砂災害時のハザードマップを廊下に掲示しており、平時から、いつでも誰でも確認できるようになっている。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・ 同法人は、入居者を施設外へ移送する必要がある場合に、誰を、どこに、どのような手段で移送すべきか、平時から利用者、家族の意向確認を進めつつ、自衛隊等の国の機関も交えて検討していく必要があると考えている。
- ・ 同法人の取組が「真似ができる分かりやすいモデル」となることで、日本の介護事業に貢献することを目標にしている。同法人は、様々な経営リスクに対処できる思考力と実行力のある介護事業者が増えることでシナジー効果が生まれ、介護事業の強靱化への道筋になるのではないかと考えている。

担当者の声

- ・ 自然災害は日本社会全体の大きな課題です。要支援者がいる介護老人福祉施設は、なおのこと強固に備えておくべきです。後悔しないよう今すぐ行動に移し、ハードとソフト両面の強靱化に向けて頑張りたいと思います。

問合せ先

社会福祉法人海光会 介護老人福祉施設 海光園  
TEL : 0557-67-1971 FAX : 0557-67-5800 E-Mail : info@kaikoukai.jp

動画

